Ⅲ グリーン・ツーリズム実践

1 地域連携とコーディネーター

❶地域での取り組み方と合意形成～後方支援の重要性～

グリーン・ツーリズムの実践において、最も重要かつたくさんの人数を要する存在がバックアップ役を担う人たちです。裏方作業が多く、収益にもつながりにくいことから実践意義の理解と協力体制の構築に労力を要することとなります。

バックアップ役の最大の任務は地域の美化であり、グリーン・ツーリズムの舞台となる地域に磨きをかけ、美しい農村地域を形成し、訪れた人たちに安らぎと非日常的空間を提供する仕掛けづくりが役割となります。さらに、地域に残る食文化や伝統の継承、産業や農林漁業の育成等も重要な役割であり、グリーン・ツーリズムの企画が実践される段階では、その下準備から後片付けに至るまで、多岐にわたる作業と人手が求められます。

一般的には、花いっぱい運動などにおける植栽やあぜの修繕、除草といった日常的に行われる地域のメンテナンスが主な役割となるため、人件費の捻出が課題になります。経費節減の観点からもグリーン・ツーリズム運動的な気運の盛り上がりによる推進が効果的です。

「地域をまとめる」ポイント

- **喜びを認識し、伝える**
  人との関わりやつながりによって得られる喜びや楽しみを自らが知り、地域住民に求め、与え、分かちあう。

- **地域住民の意見を聞き、まとめる**
  グリーン・ツーリズムに関わる様々な人たちの意見や要望を聞き、その意見をまとめながらグリーン・ツーリズムを推進していく。

- **やる気を引きだす**
  グリーン・ツーリズム推進の意義を唱え、仲間意識や機運を醸成し、意識を啓発し、地域住民の意識をグリーン・ツーリズムに向ける。

● **合意形成と地域内連携体制を構築する**
グリーン・ツーリズムを円滑に推進していくため、地域内での賛同や協力に対する合意形成と連携体制を築く。

● **人材の配置**
グリーン・ツーリズムを円滑に推進するための人材を適材適所に配置する。

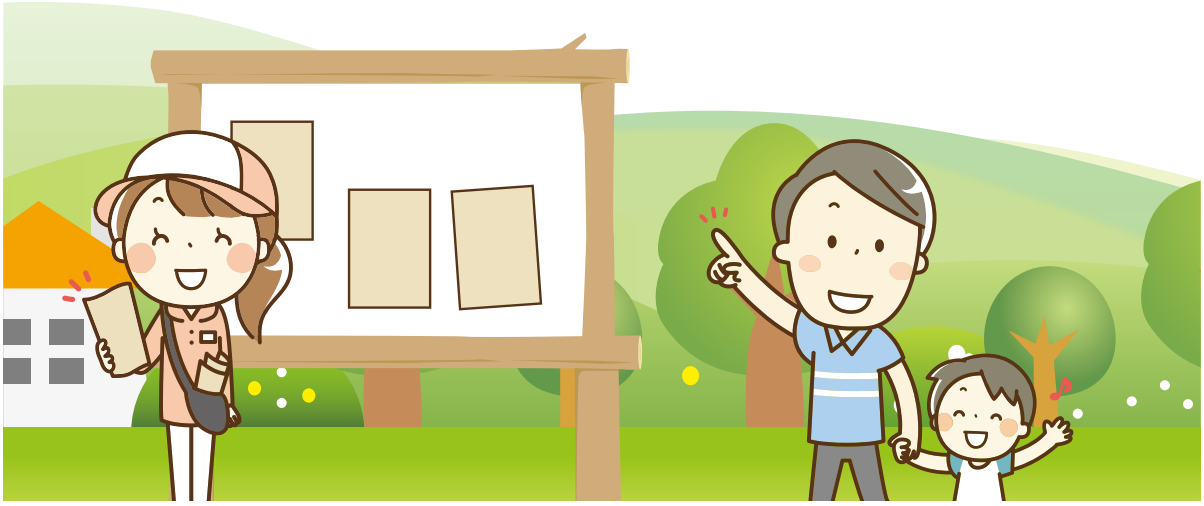
● **交渉の窓口に立つ**
県や市町などの行政やＪＡなどの関係機関、自治会長等といった地域におけるリーダーとの交渉や調整を行う。

● **人材の育成**
インストラクター等の人材の育成と人材の育成に関わる知識等を有する。

● **後継者の育成**
グリーン・ツーリズムを継続して行えるように、地域に後継者や担い手を育成する。

● **事故等の発生時の対応体制づくり**
事故やけが等の緊急事態の発生時に、地域内での対応が可能となるように体制づくりを行う。

● **地域内への情報の発信**
地域住民が参加しやすく、理解されるように地域住民に向けた情報提供を常に行う。



❷連携の進め方

グリーン・ツーリズムを通じて地域の活性化をもたらすためには、「グリーン・ツーリズムの５機能」を担う「ひと」や「もの」の発掘、活用、育成を、「地域連携」手法を用いながら進めることが重要です。

地域連携手法とは、グリーン・ツーリズムの５機能である「飲食」「宿泊」「体験」「景観」「購買」の機能に携わる地域住民同士が連携し、地域で合意形成を図りつつグリーン・ツーリズムの取組を進める手法です。

「飲食」

都市住民に訪れていただくための機能の充実を図るため、新たに飲食店を作るという発想ではなく、既存の飲食店を活用し、地域のファンやリピーターになっていただくための地産地消に協力してもらうなどして、連携を進めるとよいでしょう。

「宿泊」

既存の宿泊施設も活用できますが、地域のファンになっていただくための濃密な交流を図る宿泊施設として、規制緩和※1を活用しながら地域住民が安価に参入できる「農家民宿」の開設を促しましょう。６次産業化※2も目指しながら濃密な交流を進めるとなおよいです。

※1　グリーン・ツーリズムの推進にとって重要な役割を担っている農家民宿については、その経営を安定的なものにし、開業しやすい環境を整備するため、特区制度の活用をはじめ様々な規制緩和が図られてきました。（P.36参照）

※2　１次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、農村地域の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組のこと。(農林水産省)

「体験」

地域を理解していただく最初の一歩となり得る機能です。体験指導者（インストラクター）には、そば打ちなどに代表される一芸に秀でた「名人・達人」等、高年齢層の協力はもちろんのこと、忙しい会社員や学生・生徒でも夏期休暇や週末の協力が得られます。「飲食」や「宿泊」と違い、様々な年齢層の地域住民の協力が得やすい分野といえます。協力してくれる方も「やり甲斐や生き甲斐」「地域社会の一員としての責任」といったモチベーションを得られるでしょう。

「景観」

有名な観光地や〇〇遺産のような特別なものではなく、どこにでもある「農村景観」が重要です。

特に地域のファンから移住や定住につなげる上で、地域景観の良さは重要なファクターです。常に人の手入れが施されている状態、例えば「草刈り」「ゴミ拾い」「空き家の管理」といった「農村景観の保全」を行うことを心掛けましょう。

「購買」

「購買」は、地産地消や旬といった「その土地」を直接感じ取れる機能であり、お土産や直販といった経済的活性化に直接結びつくものです。全国各地にある道の駅には必ずと言っていいほど直売所があります。直売所は多くの品目を取りそろえておくことが重要です。都市からのお客様が「いつ」行っても「多くの種類」が「たくさん」「新鮮」にあることが魅力につながります。そのためには、常に直売所に卸していただける農家を確保し、品数を増やすことが重要です。

③コーディネーターとは

コーディネーターとは、グリーン・ツーリズムによる地域の活性化を図るため、地域での余暇活動の「企画・立案」と「現地調整」を図る役割を担う人のことをいいます。

「コーディネーターの目標」

コーディネーターの目標は「経済的活性化」と「社会的活性化」をその地域にもたらすことです。「地域連携」「地域合意形成」のもと、「何のために地域活性化を起こしていくのか？」という地域や地域住民の最終的な目標を明確に表し、その目標のための手段としての「グリーン・ツーリズムの５機能の充実」というビジョンを明確にして地域を牽引していくことが最大の使命になります。

「コーディネーターに必要な知識」

コーディネートはその地域にある資源「地域資源」を活用し行うことが肝要であり、新たな開発を行うものではありません。

コーディネーターに求められるポイントは以下のとおりです。

- 大規模な開発は行わない。
- 地域資源を最大限活用する。
- 地域住民の共通認識のもとで取り組む。
- こころのふれあい等人的交流の面を重視する。
- 農村地域に経済的効果や社会的効果をもたらすことを目指す。
- 人と地域が共に生きる農村地域を目指して推進する。

コーディネーターがグリーン・ツーリズムを推進する上での
ポイントは以下のとおりです。

- 訪れる方に受入れ地域を「第２のふるさと」として認識してもらう。
- 訪れる側の目的に合わせ様々な受入れスタイルを考える。
- 訪れる側のニーズに応じて様々なプログラム整備を行う。
- 既存の観光名所があれば連携させる。
- 廃校や古民家などの活用といった既存の条件で対応する。
- 美しい景観づくりに配慮する。
- 地産地消や旬にこだわる。
- いま、この場所で行えるもの、を提供する。
- 全てのメニュー、プログラム、要素に「人」を付加する。

「コーディネーターの役割」

コーディネーターは、企画を立案し、プログラムを作成して商品化し、募集、宣伝、ＰＲを行い、企画内容を客観的に見守り、その検証を行う役割を担います。

企画・立案するに当たっては、事前に都市住民のニーズの把握を行うなどして、世の中の動向にも敏感でなければなりません。

特に令和２（2020）年の東京オリンピックを契機に、訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、インバウンドニーズが高まるため、農村地域における都市住民ニーズと合わせて検討する必要があります。

さらに、地域内での調整も重要な役割であり、人的体制の整備、収益の分配、裏方作業の実施と手配、資金繰り、後継者の育成等もコーディネーターの役割になります。

しかし、コーディネーターの最も重要な役割は、地域で行われるグリーン・ツーリズムについて、最終的な判断と責任を負うことにあります。

「企画を立案するプロデューサーとしての役割」

- **地域を熟知する**
  企画を立案する上で前提となる地域内の全ての資源等を知る。

- **メニューを熟知する**
  地域に存在する全てのグリーン・ツーリズムメニューやコンテンツを熟知する。

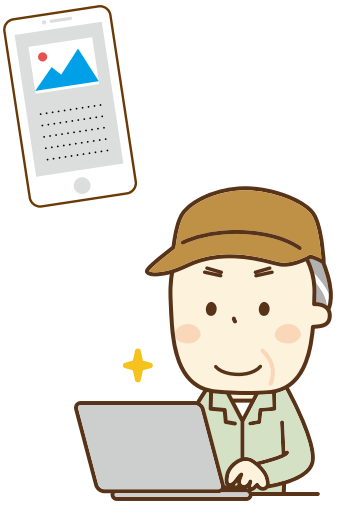
- **企画開発力を持つ**
  地域のグリーン・ツーリズムメニューのプログラムを組み、新しいメニューの開発を行う。

- **消費者を知る**
  地域を訪れる消費者のニーズ、消費者から求められる体験の内容についての知識と認識を持つ。

- **自己資金を有する**
  個人や組織として、グリーン・ツーリズム事業を運営するための資金調達を行う。

- **プログラムの構築**
  地域が有するグリーン・ツーリズム資源を活用し、消費者のニーズに合わせ、季節感と地域特性を感じることができる、無理なく無駄のないプログラムの構築を行う。

- **経営感覚を有する**
  収入と支出を理解し、経営感覚を持ち、適切な料金の設定と収益性のあるグリーン・ツーリズム事業を行う。



- **収益の分配**
  事業実施後の収益を関係するスタッフや地域に対して還元する。

- **集客を行う**
  告知、広告、ＰＲ、宣伝、募集を自ら行い、またそのために必要となる効果的な情報や手段の知識を有する。

- **法律に関する知識を有する**
  グリーン・ツーリズムに関わる法律についての知識を有する。

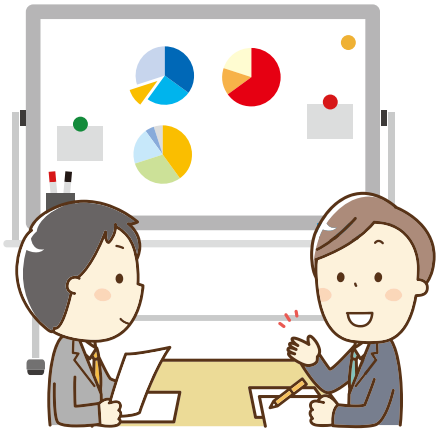
- **エージェント等とのコネクションを有する**
  地域内外の旅行会社やマスコミ等とのコネクションを有し活用する。

- **安全対策を行う**
  プログラム全体に対する安全で円滑な実施について事前の予防策、注意事項、対処法等の指導、指示を行う。

- **保険に関する知識を有する**
  グリーン・ツーリズムや体験活動に関わる保険制度等についての知識を有し、不慮の事故等の発生に備える。

- **企画についての検証を行う**
  お客様の反応、満足度、リピート率等を検証し、メニューやプログラムの修正や変更を行う。

- **スクラップ＆ビルドを行う**
  人気のあるメニューは残し、人気の無いメニューは削除していく作業を繰り返し行う。また、常に新しいメニューを考え創出する。

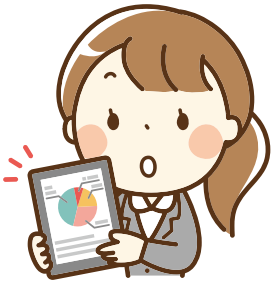


- **ライバルの状況を知る**
  地域にとってのライバルとなる周辺地域や類似企画を実施している他の地域の状況を把握し、市場優位性や顧客満足度の向上を図る。

- **将来性を持つ**
  地域にとってのグリーン・ツーリズム推進の意義を認識し、その将来性やビジョンを描き地域住民に説く。

- **事業の組織化を図り継続を行う**
  グリーン・ツーリズム事業の継続を図るため協議会設立など組織化を行い、事業継続を行う。

　コーディネーターは、魅力的な理由づくりを行うとともに、これらの機能を用いたプログラムづくりや集客を行うことで地域活性化に寄与することとなります。



④インタープリター

インタープリターとは、自然と人との「仲介役」になって自然解説を行う「通訳者」や「解説者」を指します。地域の魅力を伝え再訪を促すために、「コーディネーター」をはじめ「農家レストランをはじめとした飲食に携わる人」「農家民宿をはじめとした宿泊に携わる人」「インストラクターをはじめとした体験に携わる人」「地域景観の保全や農村フィールドの保全といった地域連携による後方支援に携わる人」「直売所など購買に携わる人」などが「通訳者」や「解説者」として必要になります。環境についても同様で、「移住・定住」に結びつく地域ファンの獲得のためには、地域住民や訪れる方々へ環境保全に対する「通訳」や「解説」が必要です。

環境保全の重要性

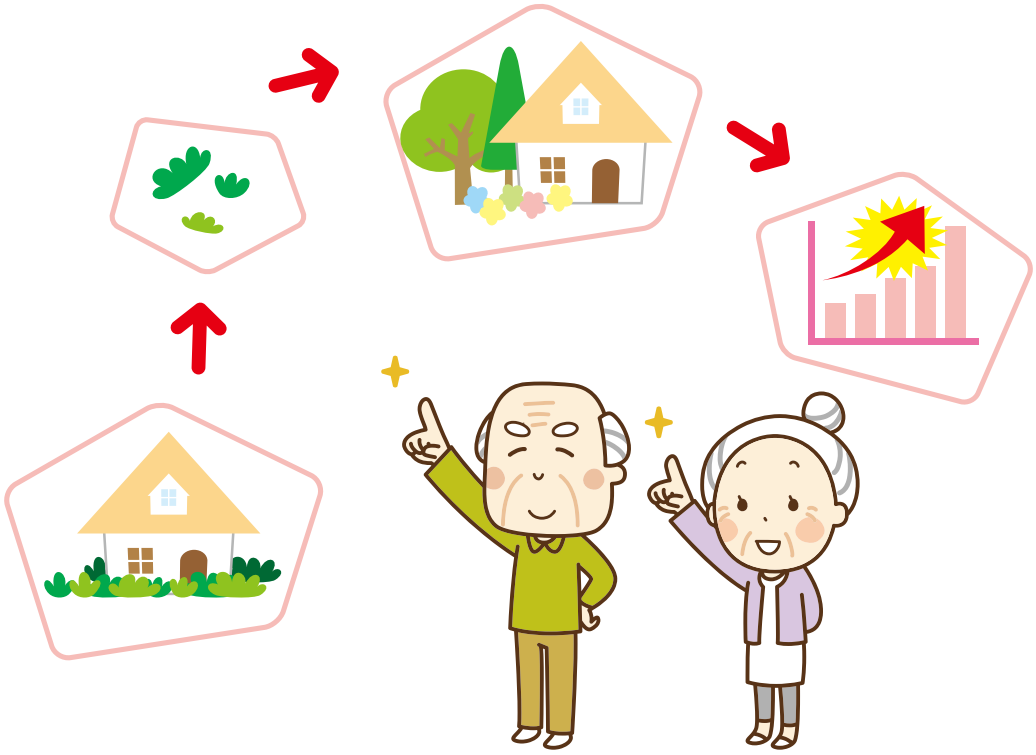
例えば、田んぼのあぜ道や畑の周辺に雑草が生い茂っていたら、１次産業従事者の作業が滞るばかりでなく農村景観も悪化してしまいます。農道など車や人が通行する道の両側に草が生い茂っていた場合は、通行に支障が出るだけでなく安全面でも危険リスクが増加します。また、田畑の周りに農作業小屋として使われなくなった「廃車」が倉庫代わりにおいてあったらどうでしょうか。見た目にも、環境整備上もあまり好ましくないのではないでしょうか。

乱立する「看板」やコーポレートカラーの「自動販売機」、コンクリートの「電柱」など、農村景観上の諸問題もあります。これらは自然に溶け込む色に彩色するなどして解決する事案が多く見受けられるようになりました。農村景観の保全が地域活性化に必要であることが地域住民へ浸透してきた結果であると考えられます。

また、山野草などの採取に関する注意点なども、訪れる方々へ伝えていく必要があります。なぜ採取してはいけないのか、きちんとした理由を伝えましょう。国立公園内など法律上採取を禁止されている場所があることや、芽などを採り過ぎると来年収穫できないものがあることなどを伝え、相互理解を深める必要があります。

「害獣駆除」も農村地域が抱える問題の一つです。害獣駆除を行わないと１次産業の維持はもとより集落維持に支障が出ます。イノシシやシカを駆除し、「ジビエ」として食する場合などは、農村地域特有の問題を理解していただく絶好の機会にもなります。

「受入れ側としての環境保全の重要性」と「訪れる方にとっての環境保全の重要性」を受入れ側の「ひと」が認識する必要があります。

環境保全に必要なポイント

- 環境保全を行うことによって地域にもたらされる効果を明確化し、地域住民のモチベーションを高める。
- 環境の保全が地域の魅力づくりにつながることを理解する。
- 集落など全体で環境保全を行う重要性を受入れ側の「ひと」に伝える。
- 草刈り等の作業について、なぜこの草刈りをしなければいけないのかといった理由を示し、草刈りを行ったあとのゴールはどうなるのかをはっきりと示す。
- 空き家の保全などは、地域景観の維持はもとより将来農家民宿を行いたい方々への住居の提供につながることを認識する。
- 山菜やきのこの収穫体験といった場合の採取の方法やマナー、山野草のむやみな採取を禁止するなどを訪問者へ徹底するようインストラクター等へ伝える。
- 安全対策上も含めて植栽やあぜの修繕、除草といった日常的に行われる地域のメンテナンスも徹底する。